

基幹システム再構築のためのデータHUBシステムの構築方法【会場】（4126192）

今後のDX推進やデータドリブン経営にとって、基幹系システムのブラックボックス化は深刻な課題です。共通データの一元管理と重複のないデータ連携を実現するデータHUBシステムは、同時に緩やかな順次移行を可能にします。本セミナーはこのデータHUBシステムの構築手法を学びます。

開催日時	2027年2月16日(火) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	要件定義から運用(新技術による開発・保守)、ITアーキテクト・システム企画・IT基盤(レガシーシステム再構築)
カテゴリー	IS導入(構築)・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術): デジタル技術
講師	中山嘉之 氏 (株式会社アイ・ティ・イノベーション プリンシパルコンサルタント、元 協和発酵キリン(現:協和キリン) 情報システム部長) 1982年より協和発酵工業(現・協和キリン)の情報システム部にてDBモデラー兼PMを務める。2005年からシステム部長とアーキテクトの2足のわらじを履き、2010年「エンタープライズ・データHUB」を完成。2013年よりアイ・ティ・イノベーションのコンサルタントに転じ、数多くのユーザ企業のITアーキテクチャの設計に携わる。2023年「エンタープライズアーキテクチャのセオリー」を執筆。
参加費	JUAS会員企業/ITC: 35,200円 一般: 45,100円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み)【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)
対象	基幹系システムの再構築の構想策定やDXのための基幹系のモダナイゼーション戦略の作成に関与される方 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

会場のみ(オンラインなし)

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

今後のDX推進やデータドリブン経営にとって、基幹系システムのブラックボックス化は深刻な課題です。

基幹系システムの再構築に際しては、将来の柔軟性、

拡張性を考慮したデータ中心アーキテクチャへの転換とともに、ビッグバン再構築のリスク回避が求められます。

共通データの一元管理と重複のないデータ連携を実現するデータHUBシステムは、同時に緩やかな順次移行を可能にします。

本セミナーはこのデータHUBシステムの構築手法を学びます。

<内容>

1 企業内各種データベースの位置付け

・次世代企業システムのデータ連携概要

2 システム再構築の課題と対応策

・各種再構築手法のメリット・デメリット

・都市計画型モダナイゼーション

3 データ中心アーキテクチャ

- ・エンタープライズアーキテクチャ（EA）とは
- ・データ中心アーキテクチャの概観

4 エンタープライズ・データHUBの設計手順

- ・データHUB設計手順の流れ
- ・エンタープライズ・データモデリング
- ・データカタログへのメタデータ定義
- ・全社アプリケーション鳥瞰図
- ・マスターハブ/トランザクションハブ
- ・データHUB連携マッピング

5 データHUBの実装構築

- ・各機能を実現する実装ツール群
- ・データHUBシステムの対象範囲
- ・構築スケジュールサンプル

6 データ中心アーキテクチャへの移行

- ・疎結合アーキテクチャへの転換シナリオ
- ・データHUBによる分割移行

7 データHUBの運用保守

- ・データカタログの維持管理
- ・アーキテクチャ管理室の設置